

校内放送を活用した防災学習



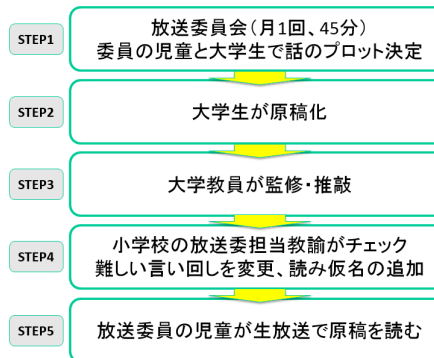
小学校での防災学習の様子

活動の概要

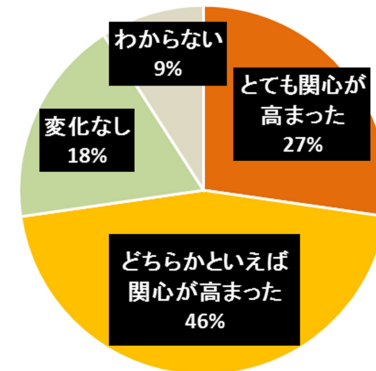
目的	多大な資源を投入しなくとも実践可能な防災学習手法を開発すること
連携メンバー	神戸市立真陽小学校（真陽こども放送局SKH見て聞いて委員会） 関西大学社会安全学部 災害情報研究室（近藤誠司研究室）
活動地域	兵庫県神戸市長田区真陽小学校区
活動期間	2014年10月～（継続中）
費用	平成26年度神戸発防災・減災等プログラム事業（2014年度）／ JR西日本あんしん社会財団研究助成（2016年度）

連携の経緯

以前より、近藤研究室では、神戸市長田区真陽地区の地域防災を支援する研究調査活動を行っていた。地区の中心にある小学校は、指定避難所でもあるうえ、地域の将来を担う人材を輩出する拠点でもある。地域防災の取り組みと防災学習を連動させられないか、との思いから、本プロジェクトを協働して取り組むことについて大学が小学校に働きかけたことをきっかけとして連携が始まった。



防災学習の進め方



防災に関心がなかった層（5年生児童）の1年間の変化

解決すべき課題

- (1) 南海トラフ巨大地震に備える必要がある
- (2) 阪神・淡路大震災の教訓を伝承する必要がある
- (3) しかし、教育の現場は多忙をきわめている
- (4) 持続的な取り組みを実施することが難しい
- (5) 豊富なリソースがあるわけではない
- (6) 安全管理と防災学習が緊密にリンクしていない
- (7) 地域防災と学校防災が緊密にリンクしていない

大学の役割

大学生と小学生が協働して、年間を通して校内防災放送の活動を実施している。このとき、実際にどれほどの効果があるのか、大学側が中心となって測定している。放送直後に、高学年児童を対象にして毎回、挙手によるアンケートを実施。また、およそ半年に1回、意識の変化、知識の変化、態度の変化を確かめる質問紙調査を行っている。これらの調査から見てきたことを、教育現場にフィードバックすることで、よりよい教育実践になるように「改善」を続けている。

成果

- (1) 放送委員児童の防災意識の向上
- (2) 放送を聴取していた児童の防災意識の向上
- (3) ぼうさい甲子園「教科アイデア賞」を受賞
- (4) 防災ラジオドラマコンテストで「最優秀賞」を受賞
- (5) これまでに約60回の校内防災放送を実施

今後の展望

- (1) 児童の参加意識を高めるためリクエストボックスを設置
- (2) 映像を活用した校内防災放送を実施予定
- (3) 地域の中学校との連携事業を模索中です
- (4) いかにしてマンネリ化を克服するかが課題です

研究者の紹介



社会安全学部 准教授
近藤 誠司
(こんどう せいじ)

専門は、防災情報論。地域防災に資するメディアを創発するための理念モデル（リアリティの共同構築モデル）を考案し続けています。



防災ラジオドラマコンテストで全国優勝した時の様子